

林地での ICT を利用したシカ捕獲技術と農林での併行捕獲の有効性

森林総合研究所
研究企画科研究基盤室
中村充博

農地でのシカ被害を減らすため、集落周辺で集中的な捕獲を実施することにより、シカの出没数を減少させることができることが実証されています。しかし、シカが高密度に生息する地域では、集落背後の山林に群れが多数存在するため、集落での捕獲による出没減少は一時的なものに過ぎず、その後二次的な出没が増加し被害の解消には至らない場合が多いのが現状です。そのため、このような地域では、集落周辺における集中的な捕獲に加え、その背後の山林においても、併行的に捕獲を実施することが考えられます。

今回は三重県伊賀市において農と林での併行捕獲を実施するために行った研究についてお話しします。その内容として、まず伊賀市周辺のシカは農地と山地のそれぞれの食物にどの程度依存しているのかを捕獲されたシカから試料(毛や肝臓の組織)を収集し、炭素・窒素同位体比分析を行うことにより明らかにしました。そして、林地での捕獲として ICT (Information and Communication Technology (情報通信技術)) による遠隔監視・操作システムと結合した森林用罠いワナを使用し、集落の後背山林で捕獲を行うとともに、森林用罠いワナの周辺にセンサーカメラを設置し、捕獲前後のシカの撮影頻度を調べました。

